

1. SEGES 社会・環境貢献緑地評価システムの意義

(発表者：財団法人都市緑化基金 上野芳裕)

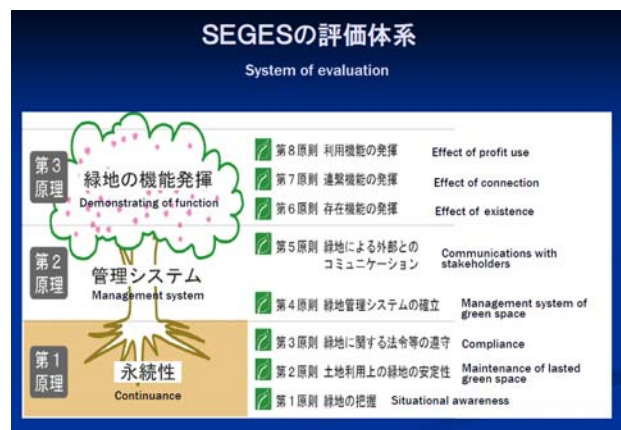
SEGES 開発の背景と経緯

財団法人都市緑化基金では、社会や環境に対して高い意識をもって緑化に取り組んでいる企業の活動を、第三者的な立場から中立公正に評価し、社会的に位置づけていくことを目的に、社会・環境貢献緑地評価システム (SEGES) を運用している。本システムは、企業の土地利用の社会性を広く普及するとともに、企業により創出される質の高い緑地の社会的価値を高め、もって緑豊かな潤いあるまちづくり、持続可能な社会づくりを目指すものである。



SEGES の評価の枠組みと評価のポイント

社会・環境貢献緑地評価システムでは、工場や事業所、環境教育施設など、企業、事業者、団体などが所有運営するあらゆる緑地を評価の対象としている。本システムでは、評価対象の緑地が社会や環境にどう貢献しているのかを、多様な側面から評価する仕組みを確立している。3原理8原則からなる審査項目に対し独自の基準を設け、緑地や環境マネジメントの専門家により構成される審査員が、申請者の自己チェックシートに基づき現地審査、ヒアリングを行い審査する。本システムでは、緑地のマネジメントが経営戦略に位置づけられ、将来的なビジョンを持って取り組まれていることを確認するために、審査員によるトップマネジメントへのインタビューも組み込んでいる。



審査員は審査結果を、環境、緑地計画、CSR等の学識有識者からなる評価・認定委員会に報告する。評価・認定委員会では、審査員の審査結果および、インタビュー結果なども勘案したうえで、5段階にグレード分けされた認定ラベルを発行する。その内訳は、社会・環境に貢献する優良な緑地として Excellent Stage 1～3 (グレード内で点数順に3段階に分かれる) と、今後、優良緑地になる可能性をもつ Green Stage、更に、Excellent Stage 3 を継続的に維持することで取得できる Superlative Stage がある。

工場や事業所の敷地内での緑は、知的生産性の向上、従業員のリフレッシュ効果など本来業務に有益に作用することは勿論であるが、企業のCSR活動の一環として位置づけられ実施されている。CO2吸収源としての地球温暖化対策、ヒートアイランド現象の抑制、地下水涵養による水循環への貢献、地域社会との環境コミュニケーションの促進などであるが、最近では、生物多様性の保全への取り組みとして活用を具体化する事例も多い。所有する緑地での、環境教育プログラムの展開、

地域住民やNPO、地元の学識者や学校等と連携した地域生態系の保全活動など、ステークホルダーに対してもわかりやすいCSR活動として活用されている。

SEGESの評価の特徴は、こうした緑地の実態とあわせた維持管理のためのマネジメントシステムと実際のパフォーマンスを評価することである。これを3つの基本評価項目（原理）として分類し、更に緑地の将来性と先進性の審査を加え、総合的に評価する仕組みとなっている。

都市における生物多様性とデザインにおけるSEGESの意義

生産や販売といった事業活動の場において、企業自らが地域社会の一員として、緑地の保全と創出に地域住民や従業員とともに参画することは、良好な緑地や自然資源の保全に寄与すると共に、自然と都市住民との関係性の復元、企業と地域コミュニティの良好な関係の構築という視点で重要である。SEGESは、明確な意図と目標を持ってこのような活動に取り組む企業を評価認定することにより、都市における生物多様性とデザインへの企業の意欲的な参加を促進することに寄与している。

都市において、ある程度まとまったボリュームで持続性が担保されている企業緑地はその存在そのものが貴重であり、生物多様性に着目した都市のあり方を考えるうえで極めて重要な役割を担うと考えられる。企業緑地による生物多様性への貢献度は、緑地そのものの質（デザイン）と管理運営方法を向上されることはもちろん、企業緑地をフィールドとした従業員並びに地域住民やNPOの参画による環境改善・教育活動が推進されることで、その価値は一層意義深いものになると考えられ、SEGESではこうした企業の取組みの一層の推進を目指している。